

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年6月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103474
法人名	有限会社 にこやかライフ
事業所名	グループホーム さくら荘
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上七丁目38番56号 (電話) 099-284-2330
自己評価作成日	令和5年5月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 訪問看護ステーション、協力病院との連携を更に強化する事で、ご利用者様の日頃の体調管理、緊急時対応、ご家族の意向を確認しながらの看取り介護についての体制整備が出来てきている。
2. 利用者様の生活を守るために、定期的な消防訓練の実施に努めている。参加できるご利用者様には訓練に実際に参加していただいている。エレベーター、消火設備の定期的な点検を実施し、日頃の職員の防火管理の意識向上に努めている。
3. 職員の介護技術、資質向上のため、外部研修への積極的な参加をして頂いている。結果、日々のレクレーションのレパトリーが増えたり、介護、医療に対する意識、知識の向上が図れている。また、毎月の勉強会を実施(内部研修)する事で職員の知識、意識向上も図れている。
4. 季節感を味わって頂きたいので、初詣やコスモス鑑賞など、外出の機会を増やしている。春にはさくらを眺めながら、外の空気を感じながら食事をしたり、庭に実をつけたミカンや野菜を職員と一緒に収穫することで、日々の生活の楽しみになっている。
5. 運営推進会議を開催することで、町内会や地域の話題、問題について話し合う機会を設ける事ができている。町内会の集まり(老人会)等で、介護相談や地域の介護についての話をし、近隣の方々の不安解消になっている。体調の良いご利用者については、町内会、地域の行事に積極的に参加して頂き、地域と繋がりをもちながら日々の生活を楽しまれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は鹿児島国際大学近くの住宅地にあり、敷地内に植えられている桜や梅・ミカンなどで花見や収穫を喜び、季節感を味わうとともに生活を楽しめるものになっている。
- ・コロナ禍のため地域行事への参加は見合わせているが、近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れには保存食のお返しをするなど、日常的な近所づきあいは大切に継続している。
- ・家族との面会はコロナ禍のため制限していたが、「さくら荘便り」を2ヶ月毎に送付して行事や利用者の近況を報告し、家族との関係が途切れないように努めている。看取り期や不穏等の利用者に関しては居室での面会も行うなどの柔軟な対応で、本人・家族の精神的な安定を図っている。現在は居室での面会を再開している。
- ・管理者は介護記録のアプリを導入して職員の負担軽減を図るなど、働きやすい就業環境作りに努めている。資格取得や研修受講を支援し職員の質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	申し送り時の機会に各階でさくら荘の理念を唱和し、各職員への意識付けを行っている。また、週1回の合同朝礼時にはプロセカ条、福祉の心唱和、『職場の教養』を活用する事で、職場人としての倫理、教養に対する意識を深めている。	理念は事業所内に掲示するとともにパンフレットに掲載している。毎朝申し送り時に理念を唱和し、合同の朝礼・会議の機会に理念に沿ったケアができているか振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	石塚町内会の行事(資源物回収、夏祭り、餅つき、清掃活動等)に積極的に参加していたが、コロナの影響で近年は中止となっています。さくら荘の行事についても自粛させていただいています。近隣の方への挨拶や野菜の差し入れなど交流は継続されています。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。資源回収のみ参加協力しており、今後も状況を見ながら地域行事に参加する予定である。近隣住民からの野菜の差し入れやお返し等は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナの影響で地域との交流が難しい状況が続いています。見学の相談等は対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員には施設運営状況報告や、スライドショーを見て頂くことでさくら荘でのご利用者の日頃の様子、取り組みを紹介したり、福祉関係情報を地域の問題等と合わせて話し合い、意見を活かして相互理解に努めている。議事録、勉強会等で会議での内容を話題にのぼらせることで職員へ周知している。令和4年度は書面での報告。	昨年度はコロナ禍のため書面開催となり、資料に「さくら荘便り」を添付して事業所の取り組みへの理解を深めてもらえるよう取り組んだ。今年度は対面開催となり、報告や意見交換を行い運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にちょうじゅあんしん相談センターの職員に参加をさせて頂いて意見を頂いている。生活保護ご利用者が3名いるので、保護課職員の方と連携をとってご利用者の生活に繋げている。鹿児島市の担当者に法令違反がないように、随時、相談し指導を受けている。	市の担当者とは、電話や窓口に出向いて報告や相談を行い連携を図っている。生活保護担当職員の来訪もある。市から研修の連絡に積極的に参加している。今年度から介護相談員受け入れを再開予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針・マニュアルあり月に1回身体拘束廃止委員会を開いて検討している。参加者は管理者及び日勤者が誰でも参加し身体拘束に対する意見交換、勉強会を実施している。身体拘束廃止委員会以外でも、勉強会、運営推進会議での議題に取り上げて身体拘束廃止に向けての意識向上を図っている。結果は書面に残し各職員で回覧して内容を確認している。	指針を作成しており、委員会を毎月、研修会は年2回事例研修を主に実施している。不適切な言葉は管理者から注意を促している。玄関は施錠せず、外に出ていく利用者に気づいた職員や管理者はすぐに散歩に同行するなど、目配りと連携で行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、身体拘束廃止委員会で議題として取り上げている。知らずのうちにご利用様を傷つけてしまう言葉による虐待に繋がらないように都度お互いに注意しながら声掛けをしている。委員会開催結果は皆で回覧して内容を確認をしている。また、虐待についてのニュースを積極的に取り上げ、勉強会で周知し、意識向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会のテーマとして取り上げ自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。現在、成年後見人を立てているご利用者が1名いる。認知症ご利用者に対しての人権、尊厳を守ることの大切さについて、介護を行う部分の根拠となる部分であるので学ぶ機会としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	運営規定、契約書、重要事項説明書や事故防止委員会等の活動状況、医療連携体制等の同意を必要とするもの、看取りに関する事項など管理者により詳しく説明している。ご家族様からの不安点、質問に適宜答えることで入所に関する不安を解消に努めている。退去の条件や利用料等トラブルが予測される事項は、特に時間を掛け理解を得て契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様からは、日々の生活の中から思いを聞きケアに反映させている。スタッフよりご家族様面会時に要望を伺ったり、家族会などで出された意見やアンケート調査を実施、要望等を職員で協議し、運営やケアに反映させている。月1回、相談・苦情委員会を行い、ご家族様からの相談・苦情について議題としてとりあげ、内容について職員へ周知している。	利用者には日常生活の中で希望等を聞き対応している。家族には面会時等に要望を聞いて対応を検討しているが、より一層要望等の把握と反映が図られるよう、今年度は家族会を再開予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者より各委員会や全体会議、個人面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。各階主任を中心に検討事案については討議し方針を決定し、運営の改善に繋がるよう心がけている。職員交流の場として、さくら荘懇親会や他事業所の交流会に参加している。	管理者は日頃から職員が気軽に意見を出せるように努めている。定例会には代表も出席して職員の意見を聞いており、職員駐車場の検討や介護記録アプリの導入に反映させている。個別相談は各階の主任が受け、管理者に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>介護職員処遇改善の施策として経験、資格、評価のあり方等給与制度の見直しを実施している。各職員の理解を得られるようわかりやすく説明する事が必要。管理者は、給与水準、労働時間、有給が取得しやすいなど、より働きやすい職場づくりを目指している。各自が向上心を持って働けるよう、外部研修にも積極的に参加して頂いている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自己啓発と勉強会を月1回実施している。外部研修内容を職員に掲示し、希望者には積極的に参加をすすめ実践している。研修に参加し介護、医療についての知識を深める事が出来ている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員の希望者が介護技術の向上を目的として、他施設へ研修に行く機会を設けている。また、他事業所の交流会を実施することで、現場職員同士のネットワーク作りの機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にさくら荘に来訪して頂き、本人の意思やご家族様の想い、要望をお聞きし、担当介護支援専門員の意見や施設の情報提供を参考にしている。また、他施設入所中には訪問し、ご本人から話を聞き、安心して入所して頂けるよう、準備に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の求めているニーズを理解し、さくら荘としてどのような対応が出来るか検討し、ご家族様の想い、サービス利用の状況、経緯などを聞き、介護支援計画書などを提示する事で、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や本人に対し要望の聞き取りを行い、グループホームへの入居が適切なかを判断し、入居が適している場合には迅速に入居準備をすすめる。他のサービスが本人にとって優先されることが必要であれば、他の事業所を紹介するなどに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかで楽しい生活ができるように声掛けや場面作りをしている。職員はカンファレンスを通して、ご利用者のケアを共有し、良い関わりが持てるように努めている。ともに支えあえるような関係作りを目指し、お互いに「ありがとう」と言える環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	穏やかで楽しく生活できるように声掛けづくりをしている。また、良い関係、かかわりが持てるように努め、お互いにあるがとうと言える環境づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも気軽にさくら荘に立ち寄れる雰囲気づくりに心がけている。親戚の方などの来訪時には居室でゆっくりとくつろげるように努めている。買い物、外泊、墓参りなど、ご家族にも協力を得ながら支援していきたい。	コロナ禍のため窓越し面会としていたが、利用者の状況によって居室面会や自宅訪問の同行支援など柔軟な対応を行い、本人と家族がこれまでの関係を継続できるよう支援に努めている。看取り期の居室面会も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に座席の工夫をして会話が持てたり、ご利用様が職員に話しかけやすい環境づくりに努めています。また、個別に話を聴き、お互いの関係がうまくいくように支援している。1階、2階のご利用者様の交流の機会、花見、運動会、クリスマス会などを毎年行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所により退所されたご利用者様、ご家族様の不安や困り事の相談には、いつでも応じることが出来るように努めている。退居後、さくら荘の近くを通られた際には来訪して下さるご家族もいたり、電話やお手紙でのお礼、感謝のお言葉をたくさん頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様との日頃の会話を大切にし、思いや意向を察知している。コミュニケーションが困難な利用者については、表情や仕草、優しく肌に触れるなどと非言語コミュニケーション法を活用し、安心感を与える事が出来るよう心掛けている。	日常会話の中で本人の思いを把握している。言葉の表出が難しい場合は、家族や職員の情報を参考に仕草等から意向をくみ取るように努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談契約時や入居後、ご家族来訪時にご利用者様の以前の生活歴や嗜好品について伺っている。過去の認定情報やフェイスシート活用、日常会話の中から過去の暮らしぶりの把握を行いながら、本人にとってさくら荘での生活がより良いものとなるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様、一人ひとりの生活リズムの把握に努め、それぞれの日々の過ごし方を尊重しながら生活して頂いている。出来ること、わかる事を言動や行動から感じとることでご利用者様の自立支援に繋がれるよう、職員間で情報を共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様が望む暮らしを中心に、日々の記録から、状況の変化や問題点等を支援経過表を通して作成し、3ヶ月毎モニタリングを行う。医師や訪問看護師の意見も取り入れ、担当者会議やカンファレンスを開催し、再アセスメントを行い、介護計画を作成し、日々のケアに活かしている。また、朝礼時に一人ひとりの具体的状況を把握することで、介護計画に活かしている。	家族の希望を聞き取り、毎月実施するカンファレンスでの職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し必要な修正を行っている。6ヶ月毎に介護計画を見直し現状に合った計画にしており、状況変化時にも見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録（食事・水分・排泄等身体的状況）やケース記録（暮らしの様子・本人の言葉や行動・職員の気づき・ご利用者の状態変化）を個別に記録し、職員は情報共有しながら実践や介護計画に活かしている。ご家族様と職員間での情報交換についての記録、相談事項についての記録もこまめに行うことで、職員とご家族様との信頼関係構築材料となるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況に応じて、病院受診や送迎等必要な支援は、迅速、柔軟に対応している。また、季節により、ご利用者の要望に合わせ、外出の機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長には、運営推進会議への参加して頂き、意見を頂いている。ボランティアによる踊り、演奏会等継続して協力を頂いている。避難訓練等は、南消防署の協力を頂きながら、継続的に実施。中学生の体験学習の受け入れを行っている。このような地域住民の方々と交流する事でさくら荘を知って頂く良い機会となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の意向を大切にして、今までのかかりつけ医の受診を支援している。はっぴークリニック・生協往診クリニック・ひなたクリニックの訪問診療、徳洲会訪問看護が週1回あり、主治医との連携が取れている。緩やかにADLの低下がみられてきているご利用者に対して、ご家族様に看取りについての意向も確認している。	これまでのかかりつけ医の継続を支援し、訪問看護師による週1回の健康チェックも行っている。他科受診を含めて職員が受診同行し結果を家族に報告している。緊急時は訪問看護師と連携して入院に繋げるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの医療連携しており、常にご利用者様の健康状態や体調変化を報告、相談し、緊急時の対応についての整備が出来ている。ご家族様には面会時や必要時には随時、電話連絡にて管理者、スタッフより状態、状況報告をしている。看護師、准看護師を1階、2階に主任として配置する事で、介護スタッフの医療的ケアの質の向上にも努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には生活記録等を持参して支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院期間中には定期的に面会に訪問し、本人の状態確認とご家族様への精神的負担の軽減に努めながら速やかな退院に結び付けている。入退院時には病院、家族と情報を共有し、必要であれば管理者、主任が付き添い対応などの支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者様の緩やかな状態の低下に伴い、ご家族様に今後の終末期に対する意向を確認している。ご家族様に看取りの意向がある場合、看取り対応が可能な主治医への変更についての説明と理解を頂き、そのための準備をすすめている。また、家族会で以前行った看取り介護を議題として取り上げる事で、ご家族様に看取り介護についての理解を得るとともに、今後の対応について考えて頂く機会を設けている。</p>	<p>契約時に看取り介護の対応も含めて指針で説明し、同意書をもっている。状況変化時には家族の意向を再確認し、看取り介護の希望の場合は、対応できる医師への変更の理解を得た上で、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。看取り介護の事例がある。職員の研修は年1回実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に勉強会等で、ご利用者の特変時についての対応、連絡手順、電話での状態報告の仕方についてを確認している。まずは緊急時に慌てない事を念頭に入れる事を最重視している。ご利用者の特変時のフローチャートを作成、すぐに確認できるよう電話口に貼り出している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>南消防署の協力を得て、年2回、消火避難訓練をご利用者様も一緒に参加し、実施している。またスプリンクラーや緊急通報装置、地域住民へ知らせる火災報知機も設置し定期的な点検を行ったり、大規模災害時のマニュアルの整備や災害時の食料等の備蓄もある。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、1回は消防署の立ち合いがある。近隣住民に訓練を知らせてはいるが、コロナ禍のため参加はない。非常用の備蓄は、7日分の水や米・乾麺などの食料を確保しており、AEDも2ヶ所に設置している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のご利用者様への関わりの中で、利用者様の尊厳とプライバシーを保持する言葉かけや対応に気を付けている。ご利用者様の人格を尊重して特に職員からご利用者様への不用意な声掛けとならないようスピーチロックには特に注意し合っている。成年後見人制度を活用している利用者様もいる。	人格の尊重とプライバシーの確保に関する研修を実施し、入室時やケア実施前の声掛け、排泄介助時の声掛け等、特に言葉かけに注意してケアを行っている。申し送りは事務所で実施し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者のご利用者様のする行為を決定するのではなく、ご利用者様に『○○しますか？どうしますか？』と答えやすい質問を投げかけて自己決定しやすい場面作りに心がけている。また、その都度『大丈夫ですか？』と介助後にも確認の声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間で区切った過ごし方ではなく、ご利用者様のペースに合わせてながら一人ひとりの体調やその時の気持ちを尊重し、レクリエーションへの参加や外出支援、各々のペースで過ごして頂けるよう、個々の思いや状態に配慮しながら柔軟に対応し1日の生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に一回、訪問理・美容を利用している。ご自分の好みがある方は毛染めもされている。パジャマへの着替えは、ご本人の意思で決めて頂き、嫌がるご利用者様に対しては無理せず対応し、自己決定の出来ない方には、職員が声掛けして一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養面に配慮し、ご利用者様の希望も取り入れるようにしている。節分の巻き寿司作り等のご利用者様が出来る事を共に行うことで役割作りにもなっている。職員も同じテーブルで楽しく食事が出来る様に努めている。季節を感じる様なツワの皮むきやもやしひげ取りなど、下ごしらえと一緒に食事の準備をしている。	職員が利用者の希望を入れた献立で調理し、個々に応じた食事形態で提供している。利用者も一緒に下ごしらえをしている。誕生日のケーキや好物、季節の行事食、弁当の出前などを提供し、季節感や食べる楽しみを味わってもらえるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、食事形態、体調に配慮し、栄養バランスに気を配っている。献立は、ご利用者様の希望や内容に工夫をし献立作成に努めている。水分量は、1日1000ml摂取を目標にしている。便秘傾向のご利用者様には特に声掛けし、乳製品をすすめたり、水分摂取を特に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携歯科医の協力を得ながら、一人ひとりの口腔状態を把握し、その人に応じた口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで誤嚥性肺炎や感染予防に努めている。食後の歯磨きの声掛けや義歯洗浄剤での義歯洗浄などの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心、プライバシーに配慮しながら、立位の取れる方においては、出来るだけトイレでの排泄を促している。それにより下肢筋力低下の予防、トイレに座る事での便秘予防にもつなげている。尿意、便意の曖昧なご利用者においては、排泄パターンの把握に努め、情報をスタッフ間で共有する事でご利用者の排泄への自立に向けて取り組んでいる。	トイレでの排泄を基本に支援している。尿意等があいまいな場合も排泄パターンに応じた声掛け・誘導等で排泄の自立に向けた支援に取り組んでおり、オムツからリハビリパンツへの改善例がある。夜間や本人の希望でポータブルトイレを使用する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録やご利用者様への聞き取りと便器の確認を行っている。運動の出来ないご利用者様や少ない方に対して、医療との連携で下剤の処方を受けている。繊維質の多い食材や水分補給、散歩、個別の排泄のタイミングを見つけてトイレに座ること、家事活動等身体を動かす機会を設け、自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の予定は基本、決まっているが、週3回、体調や希望に沿った入浴ができるように対応している。入浴を嫌がる利用者様には時間を空けたり、声かけを工夫するなど職員間で連携し、状況改善に努め、無理強いはしないように対応している。	週2～3回午前中に入浴支援を行っている。体調や希望を考慮して浴槽やシャワーでの入浴を支援しており、同性介助は希望があれば対応している。嫌がる場合は無理強いせず、翌日やタイミングを見て支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促して生活リズムを整えるように体操やレクリエーション、立位訓練、廊下歩行などの生活リハビリを行っている。一人ひとりの体調、希望に添った安眠や休息の支援を行っている。医療と連携を行いながら眠剤などの処方を受けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の服薬状況をすぐに確認できるよう『服薬管理表』を作成し、用法や副作用についても不明点があればすぐに確認できるようになっている。服薬介助時の誤薬防止のための取り組みとして、服薬袋に記入されているご利用者名、日付、朝・昼・夕食後薬であるかを声に出して確認して投薬を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりのやりたいことや出来る事を尊重し、意欲が見られない方には促しながら参加して頂くなど、食事の材料の下ごしらえや、洗濯物たたみ、縫物、掃除、レクリエーション活動、運動、気分転換に外出をしたり、個別、あるいは皆で楽しい時間を共有できるような支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者様の高齢化に伴い外出する機会が少なくなっているが、希望や体調に応じて、外出、散歩の支援を行っている。庭の果樹の収穫で季節の移り変わりを肌で感じて頂いたり、春や秋には花見などを計画を立てて事故の無いように気を付けながら支援している。町内会や他事業所の行事に参加する計画もご利用者の希望、体調に考慮しながら行っている。	敷地内の散歩を支援しており、近隣にある自宅まで散歩をする利用者もいる。コロナ禍で外出は控えているが、受診時にドライブをしたり、初詣や認知症カフェに出かけている。敷地内の桜の下で食事をしたり、果実の収穫など、できるだけ戸外に出られるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていない事を心配されるご利用者に対して、事務所で預かり金を管理している事をその都度説明することで安心されている。金銭管理については現状、ご利用者管理では困難。一部のご利用者においては、外出の際に職員と一緒に支払いをすることでお金の大切さについて理解されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される方には、事務所の電話を利用して頂いている。時には職員が一部介助、対応して支援している。手紙が届いたらすぐにご利用者にお渡しし、視力低下、認知機能の低下がみられるご利用者様に対しては読んで差し上げたりして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者は環境の変化に敏感に反応されるため、ドアの開閉音や物が倒れる音、職員の大声や大きな笑い声に気を付けている。季節感を感じる花やご利用者様の手作りのカレンダー、飾り物を利用したり、カーテンや照明も吟味し、家庭的な雰囲気づくりに役立っている。壁にはご利用者様の作品コーナーを設けたり、行事の写真掲示も行っている。毎朝の掃除に参加できるご利用者には参加して頂き快適に過ごせるよう工夫を凝らしている。	日当たりがよく明るいホールは、空気清浄機やエアコンで適度な室内環境に調節し、換気は窓を開けて行っている。季節を感じてもらえるように花や作品で飾りつけられた室内で、利用者がソファなどの好みの場所で過ごしたり、広い廊下で歩行練習ができるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファやフロアの椅子、リビングテーブル等、各ご利用者様個別に好みの場所を確保している。ソファの位置も季節やご利用者様同士の相性や希望に応じて変更、対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく居室で過ごして頂けるよう、自宅にあったタンスや馴染の私物、家族の写真を自室に飾ったり持ち込んで生活して頂くことで、ご利用者様が安心してその人らしい生活を送れるように支援していく。	居室にはベッドやタンス・クローゼット・エアコンが備えてある。本人の好み等でテレビやラジオ・椅子・寝具・写真・ぬいぐるみ等を身近に置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	短期記憶障害のご利用者様の為に、各居室前にプライバシーに配慮しながらも、ご利用者様が自室を把握できるようにご自身の写真や名札を設けている。そうすることで自室の認識ができています。また、トイレの標識も判り易くすることで、ご利用者様方々が慌てることなく安心して排泄を行う事ができ、ご利用者様の排泄の自立を促進できています。		

V アウトカム項目 1階

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない